

## タイタニック

話題の大作映画「タイタニック」が遭難の悲劇性と死を意味する船への残留と生存者との劇的な別れ、ラブロマンスのさらなる悲壮さを深めて史上最大の観客動員で話題をさらっている。当時としては世界最大の豪華客船「タイタニック」号がその処女航海の途中、ニューファンドランド沖で氷山に衝突、SOSを発信しながら沈没したのが一九一二年四月一〇日深夜。二五〇三人の犠牲者とともに四本の黒塗煙突の華麗な勇姿を垂直に立てて冷たい深い海の底に沈んだ。

氷山に衝突した地点は北緯四一度、北西大西洋のこの海域は流水の南の限界付近にあたり、夏の季節でも霧の名所となっている冷たい海域である。氷の大陸グリーンランドでできた氷山や周辺の海でできた海水が流水となつて寒流で流されてここまですべてきた。「この季節にここまで流水や氷山が南下したことは、この五〇年なかった」と年配の船員が話していたように、この年の氷山南下は異常だった。晴れて穏やかな深夜、漆黒の夜の闇の中に忍者のごとく身を隠した氷山に対して全く無警戒だった。

記録を読むと激突というより軽いショックで船体に裂け目ができたという。これ

ほど南の緯度までに流れだした氷山なので崩れが進んでいようが、それでも海面の下におよそ七倍、深さ数十倍を越える巨大なものであっただろう。流水はただか厚さ最大二層くらいで問題はないが、大陸から押し出された氷河がちぎれてできる氷山によって四万トンの豪華船もひとまりもない。

筆者も南極昭和基地に向かう船旅の途中で、基地を目前にして観測船が氷山群に迷い込んで恐ろしい体験をした。猛烈なブリザートのなかエンジン全開にしての氷山の囲みからの必死の脱出行だったが、サーチライトのしぼられた光線のなかに雪が舞いその向こうに照らし出された高さ四〇メートルの氷山の壁の巨大さと白さが、真暗な世界から浮かび上がった姿はいまでも忘れられない。リーダーがあってもこんな危険さがあるのに、それが無い時代の突然の氷山出現そして衝突は、航空機が激しい晴天乱気流に遭遇したようなもので、タイタニック号にとって驚愕そのものだっただろう。日本付近ではオホーツク海が流水で埋め尽くされるが氷山はない。

村松 照男